

急性アルコール中毒

ほけせん便り 197号
保健管理センター
学校医 山内康宏
2019年11月

急性アルコール中毒は、「アルコール飲料の摂取により生体が精神的・身体的影響を受け、一過性に意識障害を生ずるもの」と定義され、時に、意識レベルが低下し、嘔吐・呼吸状態が悪化する等危険な状態に陥ります。

人は飲酒をすると、いわゆる「酩酊」と呼ばれる酔った状態になります。通常、血中アルコール濃度が0.02%から0.1%程度で「ほろ酔い」と呼ばれるリラックスした状態になりますが、0.3%を超えると「泥酔」とよばれるもうろう状態、0.4%を超えると「昏睡」という生命に危険を生じうる状態になります。どの程度からアルコール中毒とする明確な基準はありませんが、泥酔以上で意識レベルの低下が起こり生命に危険を及ぼす可能性があります。

一般に飲酒後に顔の赤くなるタイプの人にはアルコールの分解が遅いため、飲酒による危険性は高いといわれています。中でも、若者は自分の限界がわからないこと、アルコールに対してまだ耐性が低い事等から、急性アルコール中毒の危険性が高いと考えられます。

もし周囲に急性アルコール中毒が疑われる人がいる場合には、まず ①絶対に一人にしない ②衣服をゆるめて楽にする ③吐物による窒息を防ぐため、横向きに寝かせる ④吐きそうになっても抱き起こさずに横向きの状態で吐かせる(無理に吐かせない) ⑤体温低下を防ぐため毛布などをかけて暖かくするようにしてください。

未成年(20歳未満)のアルコールは法律(未成年者飲酒禁止法)で禁止されています。また、未成年にお酒を販売・提供する事も法律で禁止されています。未成年者に絶対にお酒をすすめないで下さい。また、絶対に飲酒させてはいけません。

